

人権啓発研究集会に参加して

2月6日～7日、三重県津市を中心に、全国から約4千人の参加者を集め、第28回人権啓発研究集会が開催されました。

今回はこの研究集会に参加された方の報告です。

講演を聴きながら、目をそむけ、耳を覆いたい衝動にかられた。私たちと同じ日本人から、在日外国人に向けて侮辱的な言動が続く。この「※ヘイトスピーチ」は、永年苦勞に耐えながら必死に生きて来られた多くの人々の、価値も尊厳も一瞬に奪い去ってしまうものである。

研究集会の「差別禁止法の制定を求める」分科会に参加し、私は目の前に映し出される信じたたい光景に、衝撃と虚しさを感じた。そのきっかけは5年前、京都朝鮮第一初級学校の子どもたちに向けられた激しい攻撃であった。それ以来、勢いはエスカレートし、東京では日常的な光景となっているという。では、この背景はどのようなものだろうか。

一つ目は、ある民族に対する差別意識である。日本民族に対してある民族

は二級以下であり、生きている価値を認めないという考え方である。これは、ユダヤ人をアウシュビッツに送り込み、大量虐殺を行ったナチスドイツのそれと同じものである。

二つ目は、敵意識ではないか。ニューヨークでのテロ以来、恐怖心が広まり、過剰な危機感が敵意識に繋がっていった。また、日本人への拉致事件が差別意識と絡み合い、激しい敵意識が築かれてきたのであろう。

三つ目は、歴史のとらえ方であろう。彼らの多くは戦時中、国内に不足する鉱山労働などに従事させるため連れてこられている。この事実を棚上げにして、今になって彼らを排除しようとしているのである。

では、今後どうすればよいのだろうか。今の法律では、処罰の規定がなく、この恥ずべき侮辱的な言動は野放し状態のまま、日本社会の中に蔓延していくことになる。「子どものいじめは許さない」という世論を形成してきたように、「大人の恥ずべき行為も許さない」というメッセージが大切になるであらう。

今回の集会に参加し、「差別禁止法」の制定の必要性を強く実感しながら、大山町への帰路についた。

※ヘイトスピーチ

《ヘイトは憎悪の意》憎悪をむき出しにした発言。特に、公の場で、特定の人種・宗教・性別・職業・身分に属する個人や集団に対してする、極端な悪口や中傷のこと。(デジタル大辞泉(小学館)より)

スタンプラリーで表彰

「平成25年度大山町みんなの人権セミナー(全7回)」では、多くの方に参加してもらおうとスタンプラリーを行いました。

セミナーに5回以上の参加で、大山町の特産品をプレゼント。3月6日(木)、保健福祉センターなわで、該当となった8人の方を表彰させていただきました。

本年度も「みんなの人権セミナー」を行う予定です。また、スタンプラリーも実施予定です。



▲研究集会に参加したみなさん



たくさんのお待ちしています。

▶表彰式の様子